

都市計画マスタープラン策定に向けた区民懇談会の実施結果

① 実施概要

開催日	平成30年11月24日(土) 午後2時00分から
開催場所	台東区役所10階 1002会議室
来場者数	55名
プログラム	<p>① 基調講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマ：都市計画マスタープランをつくる意義 ・ 講演者 野澤 康 氏（工学院大学 教授／台東区都市計画マスタープラン策定委員会委員長） <p>② パネルディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマ：台東区の未来を語る ～都市計画マスタープランの策定からはじまるこれからのまちづくり～ ・ パネリスト（台東区都市計画マスタープラン策定委員会委員） 池邊 このみ 氏（千葉大学大学院 教授） 加藤 孝明 氏（東京大学生産技術研究所 准教授） 中嶋 直人 氏（東京大学大学院 准教授） ・ コーディネーター 野澤 康 氏

② パネルディスカッションにおける主な質疑

番号	質問 (来場者)	回答 (コーディネーター・パネリスト)
1	都市マスとは現状を改善するものなのか、10年、20年、50年、100年先を見据えたものなのか、台東区はこれからどうすればいいかが少し分かりにくかった。上野公園の100年先を見据えて谷中のまちをどうすればいいかについてのプランがほしい。	<p>都市マスは20年先を見据えて策定するものである。100年先はなかなかイメージしにくく、具体的に考えるのがマスタープランである。</p> <p>公園をコミュニティの核、資産として捉えてほしい。</p> <p>都市マスをもとに、詳細なプランを地区の人が考えるのが基本である。谷中地域についても、生活や雰囲気、歴史、文化など様々な価値がある。耐震などの更新も進めつつ、生活スタイルなどの価値も継承できるような建て替えの方法を考えようとしている。変えるか変えないかの二者択一の問題ではない。</p>

2	<p>これからのまちづくりということで、具体的にどうするかについて教えてほしい。パートナーシップ、協働もどのように進めていくか。区民のリードは難しい。行政側がどのようにリードして組織づくりをするか。</p>	<p>地域によって事情が異なる。既に地域で自主的な活動がある地域もある。台東区では、一律的に行政が組織をつくるのは現実的な話ではない。今後行政が仕掛けつつ、区民が前向きになる方法を考えなければならない。成功体験が重要である。</p>
3	<p>それぞれの立場で話があったのでそれを組み合わせた区民の役割を考えさせられた。不忍池は、周辺に超高層マンションが建っていて、その良さを損なっている。浅草はその後外から人を呼ぶ努力をして改善したが、上野も施設がたくさんあるから安心していると、同じようなことが起こる恐れがある。不忍池も今後高さ制限、誘導などを検討してほしい。不忍池周辺は壁みたいな超高層マンションが建ってしまった。台東区の良さが失われているように感じている。</p>	<p>様々な区民の意見が表現され、何がふさわしいかを議論するプロセスが重要である。今の不忍池は不忍通りなどによってまちと切り離されており、もったいない。超高層マンションのみならず、足元の店がないことも影響しているだろう。いろんな形でまちと池を紡ぎなおすことが重要。</p>